

立ち 立 集



昭和45年度卒業記念文集

札幌市立豊羽小学校

集立ちいく豊羽の子らへ

学校長 高梨 乃一

そして

君たちの世界を作ってほしい。

春 三月

豊羽の山山は、まだ雪の中だ

さよふなら。又ね。

三七名の皆さん。

吹雪の中に、消えていく三七の影

卒業、おめでとう。

がらんとした教室に立って

軽米柱の一しずく、一しずく。

かつての皆さんの

若い鼓動の一息、一息。

あがるいさごめさを

未来への、大きな、前奏曲。

聞く。

大きく羽ばだけ、飛べ、叫べ。

元気でね。



卒業生のみなごまへ

教頭 新川 勉

わたしはみなさんと修学旅行に行ったり、ときどきいっしょに勉強したりしましたがいま、その時のことばかりとウになつかしく思い出されず。熱を出したりおなごをいたくしたのは誰だったかな。算教の質問したのは誰だったかな。スケーターワルツの器楽でアコヤドラムをやったのは誰だったかな。

卒業してからも、小学校と続いている校舎で勉強するのだから、小学校の先生方と、ときどき顔を合わせることがあります。そんなときも、いままでと同じように、あたたかくあいさつしましょうね。

では、中学校でウんごんばってください。小学生にも親切にしてください。

卒業にあたり

一年二組担任 西 沢 正 吉

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。あなたたちが、お父さんに、手を引かれ、初めて、校門を、くぐったのが、つい、こないだのようにつづいて、このことでしょうか。

小学校生活六ヶ年の経歴を、より有意義に、これからの、中学生活に生かすようにしてください。今、思えば、あの時、二ヶすれば、ああすればと思っ、ていることでしょうか。

過去をウらむより、過去を現在、未来に、加可に、生かすかと、言うことが大切だと思います。

今日の感激を、忘れることなく自己の道に向って進んでください。

最後に、一言、
人に好れる人になれ！！

集立ちいく豊羽の子らへ

学校長 高梨 乃一

君たちの世界を作ってほしい。

そして、

春、三月。

豊羽の山山は、まだ雪の中だ

さよふなら。又ね。

三七名の皆さん。

吹雪の中に、消えていく三七の影

卒業、おめでとう。

がらんとした教室に立って

軽水柱の一しずく、一しずく。

かっこの皆さんの、

若い鼓動の一息。一息。

あかるいメロメロさを、

未来への、大きな、前奏曲。

聞く。

大きく羽ばだけ、飛べ。叫べ。

元気だね。



未来の道へ

一年一組担任 松井 従道

父母に手を引かれ
あどけないひとみの君たちが
初めて校門をくぐった
あの日から、
もう六年の月日が流れた。
その君たちは、
明るい未来の道へ、
そしてまぶしい未来の道へ歩みつつ
ある。
「少年老いやすく、学なりがたし」。
君たちは、
今の今をよく考えて、
より健康に、
より勉学に励もうではないか。
そこから、
未来の明るい道が開かれるであらう。

卒業おめでとう

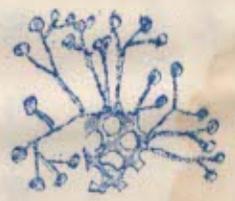
二年一組担任 村山 雄二

六年生の皆さん、卒業おめでとう。
皆さんは、これから中学生として
勉強にスポーツにますます実力を発
揮していくことと思います。
中学生になると、今までの小学校
のときのような甘えた考え方をもち
ていては、立派な中学生であるとは
いえません。何事にも努力を惜しま
ないで真剣に立ち向かっていく人こ
ぞ、誠の中学生といえるのです。
また、良い友だちを持つことも、
これからの生活にとって大切なこと
です。表面だけでなく、心の底をよ
く見せわめて、ぜひ、よい親友をた
くさんつくるよう心がけてください。
それでは、中学校にいったら、か
らだに気をつけて、立派な中学生に
なってください。

二年ニ組担任 出 刈 護

六年生のみんな 卒業おめでとう
本日に明るく元気な六年生でした。
今の友情、今の気持ち、今の明るさを
中学生になっても 忘れないで、い
つまでも、オス、と元気よく声か
けあけ仲間であってほしいと先生は
思います。

大空を めざして
たがの 巣立かな



卒業おめでとう

三年担任 境 登代

小学校生活も終わり、たくさん
人々から励ましの言葉やお祝を受け
て、はじめに、これからは、いよいよ
中学生となり、大人になるんだな
と、感した。そういふ心境ではあり
ませんが、
ちやうど、そんな頃に、好んで口
ずさんでいた歌に、とても感銘した
歌がありましたので、皆さんに紹介
し、皆さんの前途を期待致します。

夏の日山に 登ること
知識の山 登るべし
暑さ日蟻の 働くを
われらはがしこき者とみる
学ぶ人々 捨て小舟
この世の海 渡り得じ。

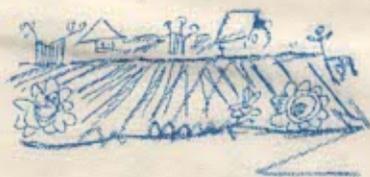
卒業おめでとう

中学 佐藤 経子

長いようで短かい一年間のおつきあいでしたね。元気のよい活気に満ちた学級でした。せい顔、長い顔、にこにこ顔、りんごのようなホッペの子、いつも夢見ているような目の女の子、となりの子とすざしやべりたがる男の子、どの顔も歌うのが好きでしたね。

歌はうれしい時はかりではありません、苦しい時、悲しい時、そんな時涙を流しながらでも歌ってごらんなさい。さつと勇気がでてさつと、ちなおるさつかけがでさるはずです。みなさんの学級はコーラスも簡単、にまとまりましたね、あのコーラスのあわせようという気持ちあれを忘れないでください。

あわせようという気持ち練習を重ねていくうちに、自然に美しく仕上がってゆくものなのです。これは他の分野にも共通です。これからの中学校生活もコーラスの時のようにあわせようという気持ちを忘れずにあゆんでください。六年間学んだことをこれからの生活に役立て、いかにしてください。



卒業を祝して

四年担任 小 柳 幹 夫

六年生のみなさん、卒業おめでと
うございます。

みなさんが、おとうさんやお母
さんに手を引かれて小学校に入學し
てから早くも六年、その間、いろい
ろな思い出があったことと思います。
どうか、小学校で学んだことを基
礎として中学校では、益々努力を続
けてください。

さよらの卒業のよろこびは、みな
さんにもちろんのこと。校長先生や
西山先生はじめ、御両親や諸先生、
それに在校生も同じ気持ちであると
思います。

豊羽小を忘れず、いつまでも健康
で努力を続けられんことを祈って
お祝いのことばとします。

卒業生のみなごまへ

五年担任 鎌 田 繁 人

みなさんとは、三年間一語に
したことになりました。

みなさんは、ほんとうによく児童会
や最上級生として、学校のために
頑張ってくれました。印象に残って
いることの一つに、子ども協議会が
豊滝小学校で行なわれた時、豊羽小
学校の紹介を六年生が、まことに立
派にしてくれました。これも、日頃
六年生が最上級生としての自覚があ
ったためだと思います。

中学校に行くこと、今までのがなり
違ったことが多く、とまどうことが
あると思います。

中学校の先生のいわれることをよく
守り、元気に頑張ってください。

社任の先生のことば

一步を軽く見るな

西山 淳一

長がった冬もすぎ、ウラウラかな春の訪れを目の前に一生の中で最もも楽しかった小学校生活を終わる三七名の諸君よ静かに目をとじて過去を思い起こしてみようじゃないか。入学当時を考えてどうだった。カバンが歩く小さながらだに胸一杯の手拭い下げてリンゴのよくな赤いほっぺをしてよちよちながら学校に来た当時の思い出。諸君、うれしいやらはすがしいやら何んとユツケイであつたと思いませんか、楽しい遠足、音空の下に精一杯の運動会、画用紙一杯にお天とウ様を書いたり火星人のよくな人を書いてとくい

瀬の校員会、そして修学旅行と本当にどれもこれも今となつては楽しい思い出ばかりでないだろうか。

三七名の諸君、苦しいのはこれがうなんだ。登山でいえば四、五合目あたりかな。頑張り、皆んな力を合わせて頑張りんだぞ。

あばれん坊、おおいによろしい、気分坊、おおいによろしい、おおいにあはれる、おおいにはばたけた、ただし足元をたれるな、足を大地にしつかりとつけろ、一步軽んじたために千じんの谷に散った登山家もある一步おろそかにしたため海中深く沈んだ水夫もあるのだ。

特に最初の一步は大切だ。

一步一步を大切にせよ、そのうえであはれる。

決して諸君に世の中で偉いと言われ、人聞になれとは言わない。自分の信ずる道を歩み、一步一步

先生方の住所
昭和四十五年夏

札幌市定山溪八四九 教員住宅
 校長先生 高梨了一
 教員住宅
 教頭先生 新川 勉
 教員住宅
 一年一組 桜井從道
 教員住宅
 一年二組 西沢正吉
 教員住宅
 二年一組 村山雄二
 教員住宅
 札幌市小金湯
 二年二組 出剌 護
 高見台
 三年 境 登代
 教員住宅
 四年 小柳幹夫

札幌市定山溪八四九 教員住宅
 五年 鎌田繁人
 教員住宅
 六年 西山淳一
 札幌市小金湯 教員住宅
 中学 佐藤経子
 札幌市新琴以町二条九丁目
 休職 藤原 誠
 札幌市定山溪八四九 右大江次
 おじさん 谷 義夫
 〃 旭ヶ丘
 おばさん 小森よし子
 〃 旭ヶ丘
 おばさん 久保田ミヨ
 高見台
 夜警員のおじさん 菊地弥一郎



先生方の住所

昭和四十五年夏

札幌市定山溪八四九 教員住宅

校長先生 高梨了一

教員住宅

教頭先生 新川 勉

教員住宅

一年一組 桜井從道

教員住宅

一年二組 西沢正吉

教員住宅

二年一組 村山雄二

教員住宅

二年二組 出淵 護

高見台

三年 境 登代

教員住宅

四年 小柳幹夫

札幌市定山溪八四九 教員住宅

五年 鎌田繁人

教員住宅

六年 西山淳一

札幌市小金湯 教員住宅

中学 佐藤経子

札幌市新琴以町ニ条九丁目

休職 藤原 誠

札幌市定山溪八四九 右大江沢

おじさん 谷 義夫

おばさん 旭ヶ丘

おばさん 小森よし子

おばさん 旭ヶ丘

おばさん 久保田ミヨ

高見台

夜警員のおじさん菊地弥一郎



担任の先生のことば

一步を軽く見るな

西山 淳一

長がった冬もすぎ、ウラウラかな春の訪れを目の前に一生の中で最もも楽しかった小学校生活を終わる三七名の諸君よ静かに目をとじて過去を思い起こしてみようじゃないか。

入学當時を考えてどうだった。カバンが歩く小さながうだに胸一杯の手拭い下げてリンゴのよくな赤いほっぺをして、よちよちながら学校に来た当時の思い出。諸君、うれしいやらはずかしいやら何んとコッケイであつたと思いませんか、楽しい遠足、青空の下に精一杯の運動会、画用紙一杯にお天とウ様を書いたリ火屋人のようなくを書いてとくい

瀬の親睦会、そして修学旅行と本当にとれもこれも今となつては楽しい思い出ばかりでないだろうか。

三七名の諸君、苦しいのはこれがうなんだ。登山でいえば四、五合目あたりかな。頑張り、皆んな力を合

わせて頑張りんだぞ。あばれん坊、おおいによろしい、気かん坊、おおいによろしい、おおいにおおいはほはたけ、ただし足元を忘れるな、足を大地にしつかりとつけろ、一歩軽んじたため千じんの谷に散つた登山家もある一歩おろそかにしたため海中深く沈んだ水夫もあるのだ。

特に最初の一步は大切だ。

一歩一歩を大切にせよ、そのうえであはれろ。

決して諸君に世の中で偉いと言われる人間になれとは言わない。自分への信する道を歩み、一歩一歩

六ヶ年の小史

昭和四十五年卒業生

昭和四十年入学

一年生

担任 おとくさんのよくな

坂口和夫先生。

社会見学 動物園 「ごっかい

さくさんだなあ。

運動会 玉入れ 「ころんな

くのは だれぞすか。

学芸会 良い子 わるい子

「あいた、レ」どくしたの。

二年生

担任 坂口和夫先生

社会見学 動物園 「一年生が見

ているぞ しっがりやろくぜ。



運動会 ホンコツ車で安全運転
学芸会 おむすびころりん
せりふもさちんと いえました。

三年生

担任 浪辺 毅先生。

社会見学 テレビ塔 植物園

運動会 自由の鐘 豊羽に鳴りわ

たる「カンカン」カン。

学芸会 器楽台奏 練習 練習に

あけくれた。

四年生

後藤久雄校長先生転出され

高梨乃一校長先生がおいごになっ

た。

担任 浪辺 毅先生。

社会見学 小樽の水族館 三馬ゴ

ム工場「だれがに」にているぞ。

運動会 ホークダンス。

。学芸会 器楽合奏

五年生

。担任 西山淳一先生。

。社会見学 桂沢ダム 「こるを見

にきたのこないぞ」。

。運動会 特殊潜航艇 「ゴールは

こちら」。

。遠足 家庭科実習をかねた 炊事

遠足 雨 雨 降れ 降れ学校で。

。野外学習 岩石 トンカチ持って

長ぐつはいて ダイヤモンドも

あるがしら。

。学芸会 学級園 全員そろって名

演技 いっまでも心に残ります。

六年生

。担任 西山淳一先生。

。いよいよ小学校最後の生活 最高

学年 自覚を持つと。



。雪中遠足 全員元気二千天高地

すばらしい天気、山の雄姿に歓声

あがる。

。修学旅行 洞爺湖光園園一泊

友だちと泊る嬉しさに、いつまで

も眠らなかつたネ。

夜なかに教頭先生と先生と交代で

巡視。ふとんからとび出して

いる人、友だちの足をだいて

いる人、ムニ

ムニ言っている人、夜なが

にふとんをたたんで掃じして

いる。まったくすごいものだった。

。運動会 子もり競争 ぼくや

よ

い子だ、ねんねしな

。遠足 炊事遠足

。野外学習 キノコ狩り 毒でも

なんでも 持ってこい。

。学芸会 中学佐藤経子先生指導に

よる 単隊行進曲 ウッとり。

。昭和四十六年三月十四日 卒業式

札幌市立豊羽小学校 校歌

作詞 石田芳雄
作曲 八洲秀章

一、 苦業萌え 希望の庭に

学びこは
天狗のみねに 胸を張り
みんなりりしく 誓うこと
大きな夢を 大きな夢を
みのらせる。

三、 雪光る 山に遊んで

さらえこは
無意根の空に 胸を張り
みんな仲よく 誓うこと
豊羽のほにり 豊羽のほにり
さずかんと。

二、 北国の 広き大地に

はげみこは
学びの庭に 胸を張り
みんなすすんで 誓うこと
教えのまもり 教えのまもり
わすれじと。



昭和四十五年夏

第二十回 卒業生名簿

伊沢 裕

佐々木雅嗣

中村寿男

上田奈保子

成田登美子

大川隆美

佐々木昌弘

福田克明

木下敏恵

仁和 成

岡田直樹

佐々木道宏

山田幸二

青藤由利香

村上由美子

小原善孝

佐藤昭雄

佐藤のり子

森 則子

龜山 実

柴田雄也

東真恵美

佐藤祐子

森谷まゆみ

川合正伸

中川道彦

安達さみえ

遠山瑞恵

渡辺幸子

木村貞一

中崎忠嗣

新井 馨

土沢和枝

小松忠久

仲田紀夫

稲森文子

中村結花

計三十七名



苦しおたえ山登り

中崎忠嗣

二月七日、日曜日。すつきりと晴
れわたった青空だった。ぼくは、心
をあげて丘から十尺高地をめざして
元気よく出発した。太陽のふりそそ
ぐ光が、とてもまぶしかった。登
て行くにしたがって、人がだんだん
小さくなってくる。ぼくは、なんと
なく心ほそくなった。でも、そんな
ことなど気にせずどんどん登り続け
た。七番くぼいの所にさしかかっ
たときである。どうしたことか急につ
かぬがでてきた。ぼくは、そこでひ
と休むことにした。なんともい
えない、いい気持ちだ。た。しばらく
くあたりを見回していたがだれもい
なく、大きな木でとりかこまれてい
るだけだった。また、しばらくして
登り始めた。からだ中汗でぬれてい
た。でも、一生懸命登り続けた。

時間の二と気が忘れて、いつのま
にか登り続けていた。ふと気がつ
いて、上を見上げると、広々とした十
尺高地が見えた。そのときぼくは、
つかぬなども忘れて、ただひたすら
に登り続けた。あとひと息。やっと
ついた。そのときの気持ち、なん
ともたとえようのないうれしさだっ
た。ぼくは、喜びで胸がらみ。ぼい
った。ゆうゆうとそびえたつ羊蹄山
ぼくは、さけびたいような気がした
しばらくして、十尺高地から降りよ
くすべり降りた。青空をバックに、
吸いこまれるようにすべりて行



祭りの相撲大会

佐々木昌弘

小学四年生の時でした。札幌と豊
羽の神社祭りがさなつて、井三しを
かつぐ楽しさと、相撲をするのど
ちつかでできるようになりました。ぼ
くは、柴田君と同じ方を選びました
そ成は、相撲でした。その日は、ま
まずと胸かきどき。中村さんのお
じさんからまゆしをしめてもらつて
土俵に出て勝負しました。なんとや
つても負けてまかり、鉛筆で、カ
さんとは、五人ぬき、ノートをか
けました。一リ目はかるく、二リ目
もかるく、三人目もかるく、三
つ目もかるく、四人目は、けんかのよ
うな相撲をする板東君でした。最初
顔を見合わせたとき、ふつりの顔で
した。とりくみにかかると、始
めは、ぼくが有利でした。ところが
板東君は、自分が不利な立場に

とゆると、おこつた。たような顔で、か
かつてくるのです。と、ぼくは、有
利だと思つてゆだんしたのがまちが
い。くんだと思つた瞬間、ぼくが下
になつて、その上に板東君がのつて
ころんでりました。ぼくの負けでし
た。せつかく三人力ところまでかん
づつたのが、木のあゆになつてしま
つたのが、残念で泣きたけ気が持た
なりました。とうとうノートはどれ
ませんでした。そして、まゆしをと
つて服をきて、そのあとの、おとな
の人たちの相撲を見て帰りました。
家に着くと、母や他のおばさんたち
子供たちがみんなそわつて、おかし
や止りアをのんでいました。そこ
で母に、「弱いねエ」勝つてばかり
の柴田君を見て、「柴田君は強いね
エ」と、いつた。ぼくは、はじをか
いたように顔が赤くなつた。

「記録会」

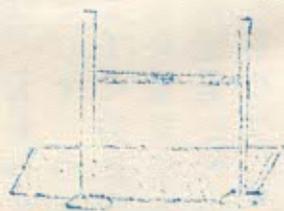
小原善孝

昭和四十五年の九月ごろだ、たと思つた。ぼくが、今年こそはと思つていた記録会。ソフトボール投げ・短距離競争・長距離競争・走り幅跳び・走り高跳びなどの陸上競技がある中でも得意なのは、長距離競争・走り高跳びなどです。苦しかつた走り高跳びは、今でも強く印象に残っています。最初は1m、しかし、ぼくは二回失敗して最後にようやく飛べた。次は、1m50cm、ぼくはまた二回失敗して、最後に飛べた。1m10cmも、1m15cmも同じだった。次は、一度も飛んでみたことのない1m20cm。一回目失敗したぼくのあとに飛んだ魚山君は、みごとに飛んだ。皆も失敗。二回目も同じ。三回目、ぼくは、思い、きり走つて飛んだ。おとがらバシーを見るとおちてい

なかつた。少しの間、ぼくは信じられなかつた。ぼくのあとにも次々と飛んだ人がいる。山田君、中村君、合わせて四人ぼくたち四人だけが1m25cmにのどめる。しかし、ぼくたちは、四人は、ノ人も飛べなかつた。唇は、口ではくやしといつてながらも心の中では、満足だ。たと思つた。

雪合戦

岡田直樹



「いたいたい。」大きな雪の玉が、頬に当たつた。ただけではなかつた。背中に雪が入つちやつた。背中が氷るほど冷たくなつて家に帰ろうかと思つた。たけ水どおたまにきたので小

さい氷を雪に混ぜてぶつ付けてやろう
と思つたとたんまたぶつけられぬ。
もうぼくのあたまはかんかんになつ
た。ちくしようと思ひながら投げた
雪の玉はいきおいよくビューと飛ん
でいっせが、うまく逃げられてしま
つた。背中に雪が入つたので調子が
悪いのかな、こんな雪合戦に調子も
なんにもないなと笑ひながら雪を固
めたんだけどどうもうまく固まらな
いのでまた、氷を入れて作つたらう
まく固まつたので、おもいっさり投
げたら今度は、うまく当たつたので
とても気分が良くなつたので、何回
も、何回も投げたけれどあまり当た
らなかつたのでもうやめようかなあ
と考えていたら、今度は、あまり痛
くはかつたけれど足や手が冷たくな
つたので帰りました。



ぼくのきらいな犬

佐藤 昭雄

ぼくは、犬が大好きなんです。ぼく
が幼稚園のころ犬にかたい目に合
ました。ぼくが幼稚園に行く時、犬
に合いました。ぼくは、おそろしく
てにげ回りました。そして、つまず
いてころんだ時、犬がぼくの背中に
飛び乗つた時、かじられるかなあと
思ひました。すると古田君たちが来
て助かりました。ぼくがどうして犬
をきらいになつたかよく、おぼえて
いません。母に聞いてみると、むか
しも犬がきらいだったそうだが、
よくわかりません。小学校にはい
ても、まだ犬がきらいでした。一、
二、三、四、五、六年生になつても
まだ犬がこわくなつてなりませんで
した。



生を見ると、なんでも、人をたよりにする。私達の一年生の時は、今の一年生よりも上級生に、せむをやかせたかもしれない。三年生の学芸会のことです。赤いバラのフラメンコを、おどる練習は、よく先生に、意ざれました。私は、まっすぐ先へ行くのにどうしても、横になつてしまひました。この劇は、私にとつて一番つらかつたと思います。小学校の思いでは、大きくなつても心に残るゝ私は、思います。

私の生活

上 田 奈 保 子

私の生活は、朝起きて学校へ行く。そしてまた家に帰り、遊んだり、勉強などをして、一日を終わる。それが、毎日毎日くり返されていく。よくあきないものだ。ほんとに自分

から感心している。その一日の生活のなかで、一番重要なのは、学校生活だと思ふ。その学校生活は、集団生活のことだ。私は、集団生活は私の性格にあわないけれど、この六年間よくや。てきたと思ふ。でもまだ中学校という大きなかやがある。私はそのかやにぶつかつていかなければならぬ。私は、胸が、ほいではちきれそうになることがある。私は本が好きで、本があれば満足感でいっぱい。一日中に二冊です。本は物の中では、一番好きなので、勉強にも、仕事にも張りかてくる。中学生になつても本を大事にしている。私に思ふ。私の家族は、父母に兄と妹で、私は、兄弟のまん甲とともよい勉強がわがうなけは兄に聞けばよいしいじめたくは妹をいじめはいい。ほんとうに二番目に生まれてよかつたと思ふ。

人が私のつきそひになつてくれました。はじめのうちには、なれなりのでいやな気持ちだ。たけれど、だんだんなれてきて、病室のおばさんたちが、とてもやさしくしてくれました。退院するときは、おんねに会えると、思うとうれしくて、たまりませんでした。

中学生活

村上 田 美 子

もう少しで、中学生だ。この間一年生に入学したと思うともうすぐ六年生卒業だ。日のたつのが早いようにな気加する。中学校にはい、たらうまくやっていけるだろうか。それに、クラブ活動はうまくできるだろうか。つらいことかあ。でもたえられらるだろうか。そういうときはどうしたらいいか、やっぱり父母に相談した方

かりいか。でも、二う言うときこそ、のりこえて行くのが中学生かもしれな。二んねを考えたら甲学生になるのが心配だ。でも中学生活の中には、苦しいこと、悲しいことだけではなく、楽しいこと中にもあると思う。たとえば一年生、二年生の現地学修、それに小学校六年生のときとちがう三年生の修学旅行。六年生のときは、一泊二日、でも中学生三年生は、三泊四日と言う長い旅行。それに、内地の方へ行く。まだ中学生にもなっていないのに、いやそれに、よりまだ一ヶ月もあると言うのに、早く中学三年生になって、修学旅行に行つて見たい気持ちになる。それに、一年生、二年生、三年生の水泳大会。小学生の水泳大会とは別にちがうところがあるにちがいなり。二う言うことのある中学生活。早く中学生になりたい。

雪祭り

柳田紀夫

ぼくは、一月三十日土曜日の日に雪祭りに見に行くために、バスで札幌へ行こうと思つて、バスに乗つたら、岡田君がいたのでぼくたちは、岡田君の前にすわつて話しかけた。そうしている間にバスは出発した。そうして、バスが札幌へついで、ぼくはおりた。岡田君はおりない。岡田君は終点までいくそうだが、ぼくはバスがおりてまだ時間があつたのでデパートにはいりました。ぼくはさつそく切手のうつてみるところへいつてみた。いつてみると人があつたので少ししまった。それからかいたい切手を少しかつてデパートを出た。そして札幌にいますお婆さんのところへ電話をした。バスでかいておしえてくれました。だけどもぼくはあつたので、途中までバス

に乗つて途中からタクシーでいきました。そしてお婆さんの家に行つたらお婆さんは心配していました。ぼくは、くる途中のことを話しました。そうしたらお婆さんは笑いました。そして、お婆さんの家でごはんを食べて少し話してぬた。次の朝ぼくはかり合ひはやく起きた。きょうは、どうさんも来るからである。ぼくはまだ、お婆さんかたが起きていないので、ふとんの中でじつとしていた。そうしたらお婆さんが起きてきて、ストーブに火をつけた。それから一時間ぐらいたつて朝食を食べた。そして、どうさんの来るのを待った。どうさんから電話がきて今行くからといつてきました。どうさんがきて、お婆さんと雪祭りに見にいきました。だけどもぼくは、見に行くかたいでデパートで切手を買つて家へ帰つた。ぼくは、バスの中で、雪祭りに見れない

のをざんぬんに思った。家に帰って
デパートで買った、切手をどうさん
に見せてやったら、また、むだづか
いしたなと、どうさんにしかられま
した。

「スキ―に乗ったことし

福田克昭

ぼくと、大川君と中川君とで二ノ
沢にスキ―を乗りに行きました。初
め、登る時めんどくさいと思いまし
たが、登らなかつたら乗れないんじ
なあと思いました。そして、大川君
と中川君が、ツヤソプを作ろうかと
言いました。だがう、ぼくは、よし
作ろうと言ったらずく、大きなツヤ
ソプを作りました。そして、ぼくが
実験代になって飛びました。あどが
ら、大川君と中川君が続いて飛びま

した。そして、大川君とぼくとでお
まえ先に行けなと合意して合っている
うちに、おしお水がいくといつて、
ツヤソプを飛ばしました。それを何回
もくり返しているうちに、ぼくが先
に飛んで、それから大川君も飛んで
そのあと中川君がツヤソプに向つて
きて、ツヤソプを飛ばした。けん間横
になつて落ちていったので、ぼくと
大川君とが心配して見に行きました
そうしたら、中川君は、ふざけて過
いでいきました。だから、ぼくと大川
君とで足の骨を折ったと思ひました
それじゃうふだつたので安心しました
そして、ぼくと大川君と中川君で三
、四回乗つて降りました。帰る時、
家まで坂なりの森に帰つてこま



初めてのけんか

仁和成

それは、四年生のときでした。私が左大江沢に、いたときで、学校でそうじをしていたときです。その日あまり、しゃべらない競走をしてたので、そうじになってから、つわたり、あしたも、の、ちゃんと言ひかないんだと、よけいなことを、何回も、いってしまいました。それがあやまりだつたのです。私は、すぐ、なかなありするつもりで、た、も、一週間ぐらいも、続きました。その間、なんとなく、さびしくて、かなしくて、なきそうになつたこともありました。そして、森さんが、たれかと、遊んでいると、私は、それを、だまうて、見ているのでした。そのとき、あのとき、あんなこと、いわなければ、よかつたな、と思つたりしました。け、きよく、そのけ

んかは、あやまらないで終つてしまいました。でも、願いがかなつたのか、いつのまにか、仲なおりして、いきました。今では、左大江沢から、高見台へ、うってきてしまいましたが、いつまでも、森さんと、友だちでいたい、と思います。という、わたしの、かなしいような、幸せのような、思い出でした。

足さ折つた思い出

中川道彦

たしかあれは昨年春のことだつた。体育の時、林運動で足を折つてしまった。それから約二カ月ぐらい、学校を休み入院をした。そして、みんなから勉強がおくれた。でも入院している間は、勉強は毎日やつた。そして、ぼくの、が、た、算数はとくにや、たつもりだが、算数はとくに悪い。

入院している間、たまたまこう思っ
た時がある、なぜこの世に算教とい
う勉強がある、誰が算教という勉強
をつくらんだらろうと思つた。でも
算教がにがてだからこんなことをま
えるんだとはとから反省をする。
ぼくの入院してゐる室に高校生のにい
さんがいた、ぼくはその人と友だち
になつた、そしてふろにい、たりや、
んぼしたりします。たまたま勉強を
教えてもらつたこともあります。まだ
ほかの友だちがいまも音楽の先生国
語の先生みんなぼくの友だちです。
たまたま国語の先生から問題をださ
れてやることもあります。ぼくは国
語はいいほうなのであんがい、いい
点数をとります。そして算教もこう
だつたらいいなと思つたでも算教も
こういうきやを、ぼえていたうでき
るとおしえてくれた。そして一ヶ月
半過ぎてた、入院する日が来た。ぼく

はみんなにあせわになりました。と
いつてたん院してきました。



「スキー」木村貞一

後は入道の中ではあまりスキーが
じつと下はなりのゆで、この二学期
中た少しでもスキーをうまくのりこ
なぞらと思う、今年は中学生になる
ので、はずかしくないようにしよう
と思う、日曜日などは、いつも自分
の家の回りやケランドへ乗りに行っ
ています、この間の連日記念日のと
きもケランドにスキーを乗りに行き
ました、僕はケッコーならすしは
すべ成るがジョンプはあまりうまく
なり、グラブの左側にツヤン下台
があつて、そこで中学にて三年がす
やつていました、此ころ側の方にも
クーツツヤン下台があつたので僕も
すべ成るかなあと思つたがはじめはか
くのですべるのをやめました、三時
ごろになるとおなかがすいてきたの
で家に帰ることにしました。

「私の妹」

佐藤 隆 祐 子

私の妹は、悦子といひます、妹は
私より、二つ年下です、私は、いつ
も妹とけんかをします、そしていつ
も、母にしがうれます、母にしがう
れても、またすぐけんかを始めます
けんかの原因は、テレビのキヤンネ
ルのことやトランプでのやりとりな
どです、テレビのことではけんか
をすると、父は「祐子はもうすぐ中
学生になるんだから、もう少し悦子
の気持ちも、理解してあげなさい」な
らぬいふ、しといひます、それで、
妹は、私が父にしがうれたので、い
いさみだと思つて笑います、妹は、
私がだまつてりやいさになつてい
ます、私の妹は、四年生の中下一番
まかないんではないかと思ひます、
私でもときどき負けることがあるの
です、妹とは、私に負けると、姉

ちやんなんが、死んでしまえととか
なんとかいいいます。私は、つなによ
しどなるると、妹はぶつぶつなにか
をいっています。妹は、つなちゃん
じゃなくて、弟がほしかったのにな
存。とどいいます。私も負けなけり
「妹なんかいらないから、お妹さん
がいたらいいなあ。」とつぶやいてい
います。私はとどき、妹なんてな
いほうがいいと思ひます。でも、妹
が土橋さんの家にとまったときなど
とてもさみしくなります。私は口で
は、妹ことを悪くいいます。が心の
中では妹が一番好きなのかもしれま
せん。でもそれかほんとうなら、妹
と今度はけんかをしないであらうかよく
していきたいと思ひます。

冬休みの終わりの日

中村 寿 男

僕は、冬休みにはいつて遊んでほ
かりいる。冬休みにはい、くなれば
を過ぎてもまだ、あそびやるを
こさない、あした、あしたと思つて
いるうちに、三日、四日、五日と過
ぎてしまった。とうとうあと三日と
なつてしまった。この日初めてあそ
りができてきた。いくら急いでも、あ
まりはかどらずにこの日は終わつて
しまった。次の日は、わりとよく進
んだがまだ一日のこつている。い
よいよ最後の一日になった。朝から
かかってだりぶ終つた。まだや
てないとこがある。こうした事が
毎年くりかえされていく。僕は三つ
した場合のよいようにしているがど
うしても最後にけがまっしてしま
う。どうしても休みになると遊ばくな
る。午前二時までかかたことがある

友人

森 則 子

自分の心をすっかり見せても、安心のできる人。こらいう友人のいる人は、私にとつて大変幸福者だと思ふ。困つてゐることがあると、あつて相に行くと私。友人がいてこそしあゆせぬ人だと思ふ。友人とは一度に、何人もできはしげり。自分とよく気が合ひ、話し合つてくれること、ほんとうの友人ではなから。友人のぢい人でも、あつて、すぐ友人をつくつて、あとから、大変な事でもおきたら困る。でも妹だけには、友人をつくつてあげたいと思ふ。二年生の妹には、まだ無理だと思ふが、友人というものをよく、一日も早く、友人というものを見つけて欲しいと思ふ。私の友人とは、小さいところ、何回か、けんかしたことがあるけど、すぐ仲直りした。

もし友人でない人だつたら、もっと長く、けんかしてわたのちがいでいと思つた。そして病氣はなから友人が休むと私はんが心細くなるほどだ。やっぱり友人といふのは大切なものだとしみじみ感じた。



修学旅行に行つて

芥 藤 由 利 香

私は、一年生から六年生まで心に残っていることは、修学旅行です。私達は、お爺の光風園という所にとまりました。私達は、光風園についた時、先に各部屋に行つて、各班長が先生によびぬていっただ。私達は、班長のいない間、皆で班長が来たらさ、よくお風呂にはいりに行こうと相談していきました。班長が来る間、部屋でトランプをしたり、ゲームをしたリして遊んでいたり、班長が来たのでお風呂に行くことにしました。お風呂の中には、戸があつたので行つてみると、プールでした。泳ぐとき何だかはずかしいとみんなをいっていましたが、その時は、私のクラスがいなかつたので、みんなを泳ぎましたが、あとからほかの学校の生徒が

来たのでみんなプールから上がつてお風呂にはいりました。お風呂ではいろいろなものがあつたお風呂がいっぱいあり、まるで長四角などいろいろな形のものがあつて、その長四角の中で泳いだりしてとてもおもしろかつたです。夜、先生といっしょに買い物に柴田屋という所に行き、物に行きました。私達は、その時間になかつたので、みんなには買いませんでしたが、光風園でも自由時間だつたのでゲームで遊んだり、男子は卓球をしたりローラスケートをしていました。

夕焼け

成田 登 美子

小学校生活も、もうじき終わる。この六年間を、ふり帰って見て、一番心に、残ると言えは、幼い時に見た、夕焼けです。あの、こいもも色の、夕焼けは、空いっぱい、云かっっていました。この時、自然の美しさ、すばらしさを、知りましたが幼い時の気あくまので、ほっそりとは、覚えていません。修学旅行の時見たのは、夜明けでした。やはり、夕焼けとは、夜明けとちがった、美しさ、あることを、知りました。幼いころに、私が見た夕焼けは、三、四回だと、思います。私の覚えていゝるおぼろげは、全部という全部がまぼゆいほ心の、美しさに、みちていました。夕焼けという物は、いつかでも、覚えていゝるものですね。私が四、五年の時に、いなかで見た、夕

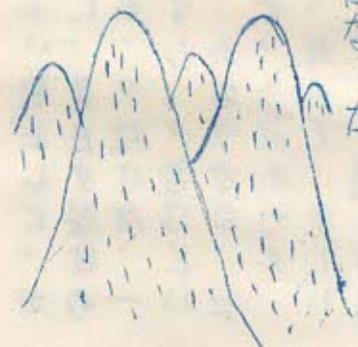
焼けも、また、美しい物でした。でも、私が、六年間に、見た夕焼けの中では、豊羽で、見た、夕焼けが、一番、みごとな物です。夕焼けといふ物は、心の中を、おおらかさ、気分、してくれます。これかうも、いろいろな地方に、行って、美しい夕焼けを、見て見たいと、思っています。私は、まだ子供です。これから、もっと成長すると、思いますが、成長する間いろいろ、夕焼けを、見ると思っています。夕焼けと、言う物は、なんと、言えない、ふるさとの美しく、たとえよつのは、恋しいと、思う物では、ないでしょう。かいままで、書いたことは、夕焼けについて私か、感じたことです。この広い世の中にくらうかな、私と、同じことを感じた人か、いるのでは、ないかと私は、思わねには、いらねいのです。

雪中遠足

川合正伸

まちにまっただ雪中遠足がきた。雪中遠足がきた雪中遠足の前の日ぼくは早めにぬた。けれどもぼくは、少しでもかゆった行事があるとなかなかぬむれなくてとうとう九時ごろまで起きていた。朝がきてとうとうさようは、雪中遠足の日だ。学校へきて校長先生のお話があった。少し時間かたつと、とうとう出発だ。ぼくたちは山に登るのだ。一歩一歩、尾のようにゆっくり山へ登って行く。あとせう少しという所で、へとへとだ。もう足が棒になつたような気がした。けれどもぼくは、もう少ししよう少しとがまんをした。とうとうぼくたちの目的地の所まできた。ぼくは、豊羽から一キロぐらいいかきよりはなれないのに、かいぶん遠いかんじだ。ここでぼくは、こせつかく

こんな遠くまできたのだものうんと遊ばなかつたらそんななあどと思つた。そこでしりすべりをした。やっぱり家の近くでやるよりも、ここですべった方が乗りこなえかあるような感じがした。すべっているとき、くつの中に雪がはいってとてもつめたかった。しばらく遊んでいるうちにそろそろ帰る時間かきた。帰るときは、長いさよりをすべるので、とても楽しい。豊羽の近くになると、なにかもう一回登りたい気持ちかした。みんな下におけると、先生のあ話があつて解散になつた。



中学校への不安

渡 幸 子

きのう、小学校一年生として、入学したと思つたら、もう卒業。そして、中学校一年生として、入学する。長いようで短かかった六年間。いろいろな思い出がある小学校。だけれどもうすぐ、深い六年間の思い出のある小学校ともお別れ。だつてもうすぐ中学生だもの。でも、なんだか不安な気がする。今だつて、クラスで最低の最低なのに、中学校へ行ったら、もっと勉強がむずかしくなるのにな、と考えると不安で不安でたまらない。小学校へ入学した時は、うれしくマうれいくて、たまらなかつた。でも今の気持ちには、うれしくない。不安でたまらないような気持ちがある。どんなクラブにはい、マいいのにも迷つ、マし、マうがもし、マないし、マ

アで失敗をしたら、どうしようなどと考えると、なんだか「卒業しない小学校にとどまりたいなあ」と考えましよう。それに中学校の女生徒は、みんな、おしとやがで、ツンとすましているみたいだ。歩き方だつて、シャナリ、シャナリとお上品で、ゆたし、ゆたいに、バタバタバタと歩く人は、いない、笑いかつて、ゆたし、ゆたみに、大きな口をあけて「アハハハ」とは、笑わぬ。中学校の女生徒は、たい、たい、皆、口に手を当てて、「オホホホ」と笑う。みんなが気持ち悪い。それに、ゆたし、ゆたいな、オテンバは、シャナリ、シャナリとお上品に歩けるが、さへゆた、ゆたない。口に手を当てて笑う。でも、マ、マの日は、ゆたしには、かえつて、さうくつがもし、ゆたない。それに、つ、つ加えても、つ、つい、ゆたない。がある。小学校だと、国語・算数・

社会・理科・音楽・家庭科・体育・道徳・図工だけだ。たのに、中学生になると、国語・数学・科学・地理・家庭科・保健体育・音楽・美術と技術・英語・習字と教科の名前がかわり、教科がむずかしくなり、ふえることだ。上級生の人には、こんな不安がなかったのかなあ。もし、あったら、どんなふうに対応して、中学校生活を楽しくさせたらいいか教えてほしいと思う。

運動会

安達紀美枝

運動会は、いろいろなおもしろいことがあったのしい。こっちは、二年生が遊戯を踊っている。あっちは、一年生がときようそうをやっている。二年三年四年五年生がときようそう

がおめった。いよいよ六年生だ。男の人がおめった。女子だ。わたしたちのばんだ。わたしの横には、東さんの村上さんと遠藤さんと、土沢さんとがいる。みんな足のはやり人たちはわりだ。出発した。はじめはおそか。たけれどだんだんできて、やっとならなれたときは、とてもうれしくてたまらなかつた。それがおわつて、障害物きょうそう、かりものきょうそうとかいろいろなおもしろいことがあった。運動会が終わりました。



楽しかった夏休み

東 真 恵 美

余市の然別にけるおばさんの所へ
去年の夏休みに行ってきた。お
ばさんのいる然別には、大きな川が
あります。そこでは、大人の人か、
魚つりをしてりました。私は、おも
しろそうなので、父と親戚の人とで
その魚をつつてける所へ見に行きま
した。するとそこには、名前がわか
りませんが、小さな魚がたくさんか
ごの中にはいってました。私は、
かごとそこで見てましたが、なん
だん寒くなってきたので、家に帰り
ました。次の日の朝早くから自動車
に乗って海に出かけました。行った
所は、らん島です。砂浜だったので
弟や親戚の子供を砂の中にうめてあ
げました。私は、まだうきぶくは存
しでは、泳げなかつたので、母とリ
ッショにうきぶくろをつかって泳ぎ

ました。それから三時園くわりたつ
と今度は、ボートに乗って海へ出が
けました。とても美しい光景です。
あちら、こちらで、モーターボート
に乗っている人も見えます。私は、
次の日に、かぜをひいてしまい、熱
は出ませんでした。かぜをひいてしま
い、熱を出さなかったが、ほんとに
を悪くしてしまいました。リッショ
うけんめいいうがりをしたり、葉をつ
けたりして、リッショうけんめい存
おしました。家に帰って来ると、今
までのことを、全部思い出してしま
いました。かぜをひいて、楽しくない
ともあつたけれど、思い出に存り
ました。



楽しい三日間

中村 結花

一月二十九日の夜、札幌に雪祭りを
見るのと同時に目を見てもらいに
行きました。一月三十日は、目を見
てもらうので学校を休みました。一
回目の病気をこじらしてから何回も
何回も、目が悪くなるので、札幌の
病院へ行かなければならぬので、札幌の
です。眼科へ行つて見てもらつた後
雪祭りを見に行きました。雪祭りを
見に行つてゐる人は、とても多くな
かなかまともに見分けられないくら
いでした。写真をとるのもうまくりさ
まじんでした。二んでゆけるし、目
は眠たいをしてるのでよく見分け
ないので、写真はうまく写つてゐる
かわかりませんが、いちおうとつて
きました。雪祭りの中には、子供た
ちだけで作った物もありました。ま
だるま、のらくるなどまだたくさん

さんありました。子供たちだけで作
ったのは、思えないうり上出来に
作られていました。雪祭りを見たあと
レコードを買に行きました。エイ
トというデパートへ行きました。母
が一枚、私が一枚買うとエイトでは
レコードのキールホルダーをくれまし
た。札幌の家にとまつて、帰るとき
エイトでもらつた、キールホルダーを
美ちゃんにやつてきました。そし
て兄には、エイトでもらつた、レコ
ードを買うとキールをくれ、たま
ると、レコード一枚とかくれる物を
やつて帰つてきました。とても楽し
い三日間でした。



思い出

龜山史

僕の幼稚園のころは、とてもゆめ
びくで、いたずら、多かったです。それ
で、よく先生にしがられた。おはか
かしい話ですが、ほめられた思い
出より、しがられた思い出のほうが
多いです。その時の先生が、斎藤先
生。そして入学、やっと僕も小学生
になった。幼稚園とはちがって、いぢ
だんときびしくなる。成績のほうは
よかったです。このとき、復田進君の
おかしな行動を思い出します。今考
えてみても、おかしな気がします。そ
の時の先生は坂口和夫先生。物置が
思い出します。また一年たつて、二
年生。思い出に残っていることは、
竹のぼらで、前の人をたたくこととし
て、後ろの人をたたくことが思い
出します。転校していったり、転校
してきたりしてまがいました。お

ぼえていません。そしてまた一年た
つて、三年生。この時は、新しい渡
辺先生がうけもちました。とてもき
びしい人で、あまりいい先生とは思
いませんでした。この時は、植森文
子さんという人が転校してきました。
おどろいたことには、テストの時
はとてもいい点数をとったことで
は、だから今でもとても努力して毎日
いい点数をとっています。ぼくもかん
ぱらなく、ちや。四年生になつても
先生はかわりませんでした。この時
は渡辺先生がとつてもきびしいので
はやくかわらないうかがあじと思いま
した。たとえば、かえるとき、歌が
へただったので、のこされたことが
ありました。とてもいやでした。
五年生になると今度は西山淳一先生
にかわりました。とても、大きな先
生でした。この時は上田さんという
人が転校してきました。その時、上

田さんの顔にむっかかれたのが、な
んだがしらないが、かさ剛たがでま
ていきました。でも、今は、もうなく
なっています。

やしてはいよいよ六年生。小学校の最
上級生なので、がんばらなくてはな
らぬ。この時も西山先生でした。
この時は、まず、渡辺君が転校して
いききました。そして新井君、遠藤さ
ん、田口さん、吉沢君らが転校して
いききました。それで、人数がたいて
へつましてしまいました。しかし、伊
永君がきて、そして岡田君、仲田君、
榎田君と転校してきたので、今の入
数は、三十七人です。そしてぼくら
ちは、中学生へと進んでいきます。



札幌に行った時

佐々木 道宏

札幌にオリンピック切手を買いに
行った僕は七時四十分のバスでい
たが、僕はちがいで、七時には、もう
三百人の人がいて、はるばる、マカ
ラ三越にはいれた。三越は切手展をや
っていたので、九回にもたたくさんの
人がいた。切手を買ってから池内へ
行って切手を買った。それから丸井
のゲームで少し遊んでからテレビ塔
に行った。今度はゲームをたくさん
した。おなかがすいていたので、テ
レビ塔へ行つて五目メンを食った。
それから二時半ころにバスの停りゆ
う場に行つた。ステーキジョンはい
つても、豊羽をおみやげに買った。そ
して、豊羽についた。しかし、手はく
ろがなが、たので、しやしうさん
にたのんでさがいえもりつた。

たうすぐ帰てしまつた。三年生の時は、父といつしよに行つた。行つたら、とてもこんでいた。帰りは、父がいろいろな話をしてくれて、とてもおもしろかつた。四年生の時は、友人と宿つた。この時は、すぐ帰てきた。家に帰ても、ねむたくてしようがなかつた。でも、その時はあんがいおそくまで起きていられた。五年生の時、この日は今までにながつ。ほとおそくまで起きていられた。それは外で遊んでいて、おそくまで家にはいらなかつたからだと思つた。それに、この日は神社で遊んできたし、ゆつくりと友人といろいろな話をしてきたからだと思つた。六年生の時、この日は神社で、友人と合つてトランプゲームなどでおそくまで遊んで家に帰つたのが一時ちかくだつた。家の人はおそくまで起きていた。僕が来たのは二時ごろだつた。朝、見ても、

「だりたい何時ころまで起きていたの。しときいてみると、あまりよくわからぬ。しと、だがうちは僕よりおそくまで起きていたのは、たしかだと思つた。大みそかになるのが、とてもたのしみだ。」

この学校に転校してきた

伊 沢 裕

長持

ぼくはこの学校に転校してきて、はじめはいやな感じだと思つた。けれど、次の日は、おそくまで遊んで、おそくまで家にはいらなかつた。それに、この日は神社で遊んできたし、ゆつくりと友人といろいろな話をしてきたからだと思つた。六年生の時、この日は神社で、友人と合つてトランプゲームなどでおそくまで遊んで家に帰つたのが一時ちかくだつた。家の人はおそくまで起きていた。僕が来たのは二時ごろだつた。朝、見ても、

友達

縮 森 文 子

私は、三年生の時に豊羽小学校に転校してきました。転校して来た時は、知らない人ばかりで、前の学校がなつかしくてたまりませんでした。でも、だんだんと慣れだして、皆が友達になり、豊羽の学校が一番よくなりました。

四月には、豊羽ならではの雪中走足。皆で汗を流して登った千尺高地。ビニールのそりで友達といっしょにすべりおろる楽しさ。

夏は、広場でバレーボールをして飛び回ったり、プールで水をかけあつて泳いだりしました。

私が、病気で学校を休んだ時は、その日に学校で習った事をノートに書いてきてくれた事もありました。それから何年生の時だ。たか、私が足にやけどをして歩けなくなり母に

そりで学校へ送りむかえしてもらった時、友達が母の手助けをしてそりをひっぱってくれたこともありました。仲のいい友達が転校して行ってしまった時は、とてもさみしくなりました。いまも、こまごまいてる友達を助けてあげたりする友達は、ほんとうにいいものだと思いました。

友情

遠 山 瑞 恵

友情そのことばは、短かくても、深い、美しい意味を表わしていると思う。よく考えで見ると私にはいろいろな友だちがいる。小さい時から仲のいい森香さん、カッコちゃん、けんか相手のトミちゃん、サッチ、いつもはゆましあえる人稲森さん。と考えると考えれば考えれば、思いつかん

でくる。今から何ヶ月前になるだろうか。友だちと大げんかしたことがあった。ある私の行動から、友だちをおこらせてしまった。その時の私の行動は、けっしておこらせてしまふようなものではなかつた。しかし、みんなは私の行動を別なふうにとらえました。私は正しいと思つていても、内心とでもさみしかつた。けんかしてから一週間たつたある日、ある人が、初めて私をなぐさめられた。その人は、今まで、あまり仲のよい人ではなかつた。それどころか、私と仲よくしていた友だちをとらえていた人だつた。しかし、その時、やつとゆかつたような気がした。私にやさしくなぐさめてくれた人、そんな人なら、きらう人は毎日と思ふ。友だちをとられたということは私の性格に欠点があつたのだと……その時、本当の友だちというのを知



つた。友情、くりかえし書くが、私はそのことはが大すきだ。人と人との結びつき、愛、心と心の結びつきが、この二つは、表れされまいると言つても言いすぎではないと思ふ。これからも、絶対、こねれぬ力、たい友情をつくらうと思ふ。

入学式からもうすぐ卒業式

柴田雄世

胸をわくわくさせ、母の後ろについてこの豊羽中学校の門をくぐった入学式。学校へ行くといううれしさで胸がいっぱいだ。たのきを今でも覚えています。学校へ初めて通う日は、朝五時ごろに起きて、新しいぴかぴかの、黒いランドセルを背おい、母があさん、まだ学校へ行く時間にはらばいの？などと、うるさく得意な気がして、ランドセルを背あつたまま、家じゅうをぐるぐる走り回ります。こういう、入学式の思い出ほびをいだき、ぼくはもうすぐ卒業します。大好きだった先生がたが次々とよその学校へ転勤されたりやめたりしたとき、どんなに悲しかったことでしょう。体育の試合で負けた時、どんなにくやしかったことでしょう。けんかして、泣いたこと

もありました。今は、とてもなつかしく思われるのです。ぼく達は小鳥今、小学校生活というかごを飛び立って、新しいかごへ、とっ進して行くのです。そこにはどんなことが待っているかわかりません。楽しいこともあります。悲しいこともありません。今までの小学校生活の中の教訓を生かし、どんなことがあっても負けない中学生になるつもりです。

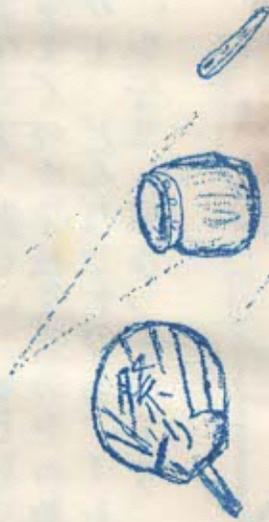


お祭り

佐々木 雅 嗣

ぼくが、お祭りでみこしをしたのは4年生のころだった。みんなこしにはいろいろなふくろを、ぶらさげで、部落をまわって歩いた。部落のおばさん達は、おかしや飲みものをもって、ぼく達かくるのを、待っている。ぼくは、おかしが大好きだから待ってました。とばかりに、ふくろをさしあてて、おかしをたくさん入れて、また、次の部落へはりきってまわった。その日はあいにく、雨がふっていたが、雨なんか全々気にほらなかつた。そして、たくさんのおかしをもらいながら部落をまわっていくと、いつのまにやらナイロンのふくろはいっばいになり、みこしをかつぐのより、おかしが、おちないように守っているのがせいいっぱいだった。これだから、みこしは、

楽しくてしかたがない。でも、今考
えてみると、「ワツショイ!!」ワツ
ショイ!!と、いせいのいいかけ声
を、かけながらやったみこしも、も
うすぐで、中学生だからそんなこと
は、していられない。だから少しづ
つまらぬ感だ。もう一回、一年生
になつて、やりたいぐらいだ。



母の仕事

森 谷 ま ゆ み

母の仕事は、大変だとは思っているが、思っているだけでは、だめだと思ひ、母のするに、その日だけ母のする仕事をやってみました。すいじ、洗たく、そうじとれを、やっても大変。それをなくとも私は、なにをするにも、すぐあきてしまふほう、身にしみるほど大変でした。特に、私かてこま、たのは、洗たくでした、石けんを、入れすぎたり、フリールを入れすぎたりしてしまいました、もう一つこま、てしまったことは、しらないうちに、色がつか物にいっしょに、白いくつ下を、入れてしまったことです。だつ水へかけるときみたら、くつ下は、ピンク色にそま、ていました。やりかけのぬいことだから失配するのかもしれないが、と。でも大変でした。こ

のように、毎日、このよう母仕事をしている母に、とても感謝していただきます。一日や、すぐあきてしまふのに、毎日、毎日同じことをして、私達のためにつくしてくる母、かたか、痛いといつても、さちんと、そうじをしてくれたり、ご飯を作ってくれる母、ほんとうに心から、感謝しています。だから、おかあさんと同じだと思ひます。おかあさん。と。でも、いい言葉だと私は思ひます。



雪中遠足

木下 敏 恵

小学校生活六年間には、楽しい思い出がたくさんあります。その中でも一番わたしの心に残っているのは雪中遠足です。前の日から、いろいろな物を用意しておいたはずなのに、その日の朝になると、また、わすれ物がないかとあたりを見まわして、ないときづくときと安心してわすれ物は、学校へ、むかいました。学校につくと、わたしは、ほんとうにわすれ物がないかと思ひ、また、一つのまにか調べていました。今、思うと、なにかわすれ物でもあったら、せつかくたのしい雪中遠足が楽しくなくなると思ひ、いたからなんだなあと思ひます。校長先生のあいさつが、終わると、いよいよ目的地にむかって出発です。わたしは、半分も登らないうちにこわくなってしまいました。

たが、みんなにつられて、くるしいこともわすれて、登っていきました。低学年の時は、お弁当を食べて、すぐ帰りましたが、高学年になると、もつと上まで登ってから帰ります。途中で、こわくなって、登るのをやめた人もいました。わたしは、かまんして、登りました。どれだけ登ったか、よくおぼえていません。ただみんなに、まけないように登っただけでした。目的地に、ついて見ると、羊躰山と青い空が、まっ先に、見えたことを、思ひ出します。それから、しりすべりをして、下までおりていきました。そして、うちに帰ると、つかれが一やんにでて、こわくなつたことを、わたしは、今でもおぼえています。

修学旅行に行く朝

小松 忠 又

ぼくの一番の思い出では、六年の修学旅行に行く朝のことです。あしたはいよいよお修学旅行だ。ぼくは、あした行く修学旅行の用意をして、ふろにはいって家に帰って来てからすぐふとんにはいって、ふとんの中にはいつてからとまるどころはどこだろうかと考えていううちに、もう十時になってしまった。つぎの朝、六時に目がさめた。そつと目をあけて台所をみたら、もう母は起きてしたくをしていた。まだ六時だしあと七時まで一時間もあるのでまたぬむった起きたらもう七時前だったのだから起きて顔を洗ってご飯を食べた。それからご飯をバツクに入れて行くしたくをした。そうして行くころと思ったらくつがはがった。急いで母とさがしたらどこにもないので古いくつをは

りていこうと思つてバツクをとつた。バツクのうしろにあった。そうして行くうちに、もう七時四十五分ごろだった。木村君がさそいに来た。いそいで木村君と走つて行った。学校に行つたらまだみんなが遊んでいたので、ぼつとして木村君と歩いて行った。



僕、私の将来の夢——

泣きたい者は泣け！
笑いたい者は笑え！

山十年後の我を慰よ……



自動者工場主

「ヒッピコ型軽四輪 すこい馬力

これこそ世界一し。

大川隆美

卓球選手

元世界選手権保持者

「上達する方法はし「教室で板でやるのが一番です」。

小原善孝

野球選手

ホームラン王龜山選手豊羽に来る

「さあ、皆さんで、ボールをさげよう」。

龜山 実

ベトナム派遣特派員

川台正伸

「世界平和のため、真実を報道します」。

船長

木村貞一

世界一週観光テツコ号船長
ただ今太平洋航海中。

自動車技師

小松忠久

「ひびくこわれたの怪すきだネ
小松式修理法で、新品同様し」。

アナウンサー

佐々木雅嗣

「皆さん、こんばんは
今日の同窓会は……し」。

サッカー選手 ○×重工主将

佐々木昌弘

「僕の少年時代ですが、それはスポーツと勉強と両立していました」。

美容師

世界美容師会々長 佐々木道宏
「女性の美しさは、男性が一番よくわかりますし。」

マンガ家

「子どもの夢を育てることが僕の一生涯の仕事ですし。」
左藤昭雄

探検家

「ついにヒマラヤの雪男を発見す。」
柴田雄也

レスラー

「パシフィック・タッグチャンピオン」×中川のヒネリチョップはすごいもの。
中川道彦

建築技師

「タダシ式建築法」これぞ日本が誇る世界的建築法と評判。
中崎忠嗣

物理学者

「月を地球に引きつけることに成功」ノーベル賞を受ける。
中村寿男

新聞記者

「事件記者」カッコイイぞ。
山田幸二

パイロット

「乗ったら最後、行く先は僕にもわからないねし。」
伊沢 裕

宇宙飛行士

「地球は青かったし」豊利小学校は楽しかったし。
岡田直樹

飛行機整備士

「一分のくもらいもないこの整備」絶対安全で空の旅がでます。
仲田紀夫

サッカー選手

「左手、左足のこのキック」プロより勧誘中。
福田克明

ヘアデザイナー 東 真央美

東ヘアデザイナー学院長

「ハマウエーグは得意中の得意」。

くだもの店経営 安達さみえ

「わたしは まっ赤なリングです

いらっしやいませ」。

歌手 新井 馨

コロンビア専属 テレビ番組

「がおると歌おう」に出演中。

洋裁デザイナー 船森文子

国際ニューモード研究所長

フランス視察中。

看護婦 上田奈保子

日本赤十字看護婦長

「みなさん、病人には薬よりも、

本を讀んで絶対の安静です」。

推理小説作家 木下敏恵

江戸川乱歩賞受賞

でも、夜中のトイレだけは……

医師 青藤由利杏

「大ねこ、小鳥病院長

「小鳥のピコは、ほんとうに、かわ

いいですよ」。

洋裁デザイナー 土沢和枝

土沢和枝洋裁学院長

「映画スターの服は、みんな、私か

デザイナーするんですよ」。

看護婦 中村結花

日本看護婦会長

本りすぎ防止対策委員

花嫁 成田登美子

成田花嫁学院長

「卒業生は皆んな立派な家庭の主婦

になれますよ」。

スチユワデス

仁和 成

アデーシヨン プリーズ

全日空スチユワデス 東京ー

北海道便勤務中

デザイナー

村上由美子

ユミ式小型スーツ

世界中に大

流行ー

洋裁師

森 則子

森洋裁学院長

「わたしの手にか

かれば、作れないものはないのよ

ちよいとし

カメラマン

森谷まゆみ

「世界の奥情をこの目、このカメラ

でながめ、皆んなに知ってもらい

たいですし

保母

佐藤祐子

「みなさん静かにしてちよくだい

さよくは先生の子ども頃の話を

をしておあげましょネし

医者

遠山瑞恵

財団法人遠山女子医科大学学長

公害病研究のためドイツに出張中

デザイナー

佐藤のり子

日本デザイナー協会会長

アメリカデザイナー協会の招きに

より渡米中

弁護士

渡辺幸子

「ケンカでは負けますが口では絶対

よし。日本弁護士会会長

